

ご卒業
おめでとうございます

さらなる飛躍を期待



会長 廣瀬 修（A4神奈川）

年が明け、平成30年3月、桜の季節となりましたが、後援会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。平素より会の活動に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

早いもので、新入生を迎えてから一年が経ちました。オリンピックまであと850日あまりとなりましたが、日本の景気は穏やかな回復基調であり、厚生労働省と文部科学省は今春卒業予定の大学生の就職内定率が昨年の12月と比べて1ポイント増の86%で、過去最高と発表しています。それにも増して日本工業大学の内定率は96.8%であり、求人倍率にいたっては、16.51倍です。全国平均が1.73倍ですので、驚異的な数字です。このタイミングで、ご卒業を迎えられた保護者の皆様、心よりお祝い申し上げます。来年度以降も末長く好景気が続くことを切に願います。

日本工業大学は学園創立110周年、大学設立50周年を迎えられ、新多目的講義棟が今年12月に完成

予定です。2月の特別事業委員会と理事会では、次年度の特別事業として学生自治会用倉庫建設の具体的計画が承認されました。さらなるキャンパスの充実が期待できます。新学部学科も設立され、ますます大学は発展するでしょう。

一方で昨年、今年といくつかの企業の不正が発覚し、謝罪が続きました。日本のものづくりのあり方がまたもや問われています。日本工業大学の学生は皆、技術で価値を創造する技術者です。技術者が大切にするのは金銭ではなくプライドであると感じています。在学中、あるいは大学を卒業してそれぞれの場所ですべての学生がそれぞれの場所で活躍を迫られる場面が訪れるでしょう。その時は「人間としてこういう生きざまが正しい」と思うことを貫いてほしいと思います。全ての学生の成長とさらなる飛躍を期待します。

最後になりましたが、柳澤理事長先生、成田学長先生をはじめ、大学教職員様、後援会事務局の皆様、後援会活動への協力に対し、感謝申し上げます。また、会員の皆様には、引き続き後援会活動にご支援とご協力を宜しく願います。そして皆様とご家族のご健勝を祈念致します。

新入会員説明懇談会を開催

「新入会員説明懇談会」は、この4月から本学に入学が決定した学生の保護者を対象に実施している説明会です。後援会支部主催で企画・開催しているため、同じ経験をされてきた先輩会員や現役学生からのアドバイスを直接伝えることができます。アットホームな雰囲気が本会の特長であり、参加した方からは入学を前に安心できたとの声をいただいております。

「大学と家庭との架け橋」という重要な役割を担う後援会は、さまざまな事業・活動を通じて新入学生の成長を大学とともに応援し、見守っていききたいと思います。

平成30年度新入会員説明懇談会開催一覧

開催日	主催支部	開催会場	大学側出席者
3月 4日(日)	新潟	長岡グランドホテル	穴井正洋 教務課長補佐
〃	蔵王	霞城セントラル「紅花樓」	川島信也 教育研究推進室主任
〃	青森	ラ・プラス青い森	鈴木史朗 財務課長補佐
〃	北陸	富山電気ビルディング	齊藤 望 入試室課長
3月10日(土)	茨城	ダイヤモンドホール	初見範子 就職支援課長 吉田有美 教育研究推進室主任
3月11日(日)	静岡	男女共同参画センター あざれあ	大塚竹郎 学生支援課長
〃	福島	清稜山倶楽部	山本好央 財務課長
〃	長野	ホテル信濃路	倉島清隆 財務部長
〃	栃木	ホテル丸治	鈴木良裕 留学生別科課長 源田郁絵 留学生別科主任
〃	群馬	ホテルグランビュー高崎	杉村京子 総務課長 古澤雅仁 施設環境管理課主任
3月17日(土)	山梨	ホテル春日居	森戸秀幸 総務課主任
3月24日(土)	岩手	北上市さくらホール	塩入 修 就職支援課長補佐
3月25日(日)	千葉	学友会館	江原里織 総務課主任 小野瀬香苗 就職支援課主任



大学事務局より入学前後の準備などについて説明（新潟県支部会場）



現役学生からも新入生にアドバイス（群馬県支部会場）



懇親会で歓談する参加者の皆様（茨城県支部会場）

日本工業大学後援会 会報

第

107号

発行／日本工業大学後援会

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四一
（〇四八〇）三四四二（代）
平成三十年三月二十日
http://nikkenkai.jp/

R2100

役員だより

役員を誘いを断らないで良かった

副会長

市川 道教 (S4東京)



役員のお誘いを受けた時には、不安であり、お断りしたい気持ちもありました。でも、いざ始まると、先輩役員や職員の方々の指導で、役員会や懇談会に出席させて頂き、すぐに義務ではなく楽しみにになりました。特に、地方への出張は、会員の皆様と心が通い、仕事や親戚付き合いとは違った遠方の友ができ、人生が豊かになったように思います。自分では探せない珍しいスポットや名店にお連れ頂いたのもいい思い出です。

昨年度は、未熟ながら会長を拝命し、ご期待に沿えたという自信はありませんが、皆様のご協力に支えられて、なんとか責務を全うできました。その中で、卒業式、入学式での挨拶が一番緊張しました。話のネタを仕入れるのに本を読んだり、著名人の講演会に行ってみたり、恥ずかしながら陰の努力をしたこと、白状いたします。



平成27年度役員一同で撮影した記念の一枚

上手な挨拶ではなかったと思いますが、本人としては精一杯でしたので、お許し下さい。会長任期中には大きな試練がありましたが、学長をはじめ教職員の皆様の一貫した学生本位の姿勢を見て、少なからず感銘を覚えました。なによりも、後援会会員の皆様が結束して協力して下さったこと、決して忘れません。

息子は工学を学びましたが、父の私は、人の温かさ、組織の難しさ、危機管理の大切さ、普通では学べ



近畿支部地懇で訪れた宝塚にて

ない貴重なものを得たように思います。同じ学費で、二人で学ばせて頂き、役員でなかった皆様には少し申し訳なく思っています。

最後に、日本工業大学と後援会の益々のご発展、教職員の皆様、会員の皆様のご健勝をお祈りします。そして、心より感謝を申し上げます。

四年間をふりかえって

副会長

菅原 昌人 (M4新潟)



「大学は工学部に進みたい」と高校時代の私は、関東の大学の情報を収集しておりました。日工大も設備が充実した東京から近い大学、と目をつけておりました。しかし私の大学進学は実現しませんでした。ところが、あれから20年、息子がこの大学に入学したのです。自分の夢が叶ったかのように祝福したのを覚えております。

引越しの準備などを考えていた2月のある日、後援会新潟県支部より新入生歓迎会の便りが届きました。この手紙こそが後援会との最初の出会いでした。その後さまざまな支部活動に参加させてい

いただきました。地域別教育懇談会では支部役員の皆様と会場の設営や準備をしながら、同級生の会員さんと「あと2、3年したら私たちが中心になるんだね」と話しをしたのを思い出します。新潟県支部の忘年会と総会は赤倉山荘で行っており、先輩方と楽しい話で深夜まで酒盛りしたことは楽しい思い出です。

あつという間に一年が過ぎようとしている時、先輩から後援会理事のお話をいただき、理事会に参加する運びとなりました。2年生からは理事会を通じ全国の方と話をする機会ができました。理事会後の懇親会で話をしていると、お互いの子供同士が同じ部活で友達だったり、お勤め先に仕事で出入りしていたりで、えっ！となることが何度もあり、世の中広いように狭いと感じました。



岩手県支部地懇で訪れた平泉中尊寺にて



退任支部長への感謝状を授与される菅原前新潟県支部長

3年生からはなぜか本部役員になり、ますます多くの方と接する機会が増えることとなりましたが、その分新潟県支部の活動がよろそかになってしまい、支部の方に大変ご迷惑をおかけしました。支部の皆様が力を合わせて活動していただきましたことに感謝いたします。

おかげさまでこの4年間で息子もかなり成長することができました。自分の思った道に進むことができたようです。私も同時に成長することができました。全国の方々から様々な考えや貴重なお話を聞きし、大変参考になりました。本当にありがとうございます。

最後にこの大学を選んでくれた息子に感謝するとともに、4年間を通じお世話になりました役員、理事、全国の支部の皆様、先生方、事務局の皆様にも厚く御礼申し上げます。楽しい思い出をありがとうございます。

この4年間に思い出す

副会長

加藤 仁司 (E4 福島)



息子の入学が決まってから、諸々の手続きや引越などで慌ただしく、入学まであつという間でした。その時期に後援会との初めての出会いとなった「新入会員説明懇談会」が行われました。まず、これは聞いておいたほうがいいと思い、息子と私たち夫婦で出席しました。大学側からはもちろん、工友会からも説明があり、さらに在学生と新入学生がフットーキングで交流するという充実した内容に感心しました。

入学式の日、息子はその時に会う



大学視察研修で成田学長と一緒に

ていた新入学生たちと会場にすんなりと入って行きました。親の私たちのほうが緊張していた感じです。この説明会がきっかけで福島県支部役員の依頼があり、できるかどうかと考えるながらも引き受けて、こうして4年の月日が経ちました。

当初は総務として妻が主に活動していましたが、妻の勧めもあり、引き継いで活動を始めました。妻は、本部役員になった今でもサポートしてくれます。息子にはアパートに何度泊まるので、少々煙たがられる時もありましたが、お互いの様子の一端を見ることがなり、いい距離感での親子交流になったと思います。また、役員OB・現役員や大学関係者、周りの方々にアドバイスいただきありがたく思っています。

活動するにあたって、各行事へ会員の出席を増やすのがなかなか大変なところ。他支部の方々からも、現状より活発に活動するには、どうしたらよいかと運営に苦慮している話を聞くことがあります。当支部も役員を引き受けてもらえる方を探したり、各行事の日程や会議の進め方を再検討したりしている状況です。このように話ができるのも、皆様が熱心に活動しているからこそだと思います。役員同士の意見交換や他支部での行事など、このような後援会がなければ知らないで終わってしまいます。先にも言いましたが、初めのうちはできるかどうか不安なこともありましたが、活動に携わるこ

とができて良かったと思っています。

私が役員になった頃は震災3年後ほどで(震災当日は息子の中学卒業式)、だんだん落ち着いてきた状態でした。入学後、単位取得と成績表が少々変更となり、新年度からは、新しい学部体制がスタートするという動きがありました。後援会活動も含め、この年月の動きの中にいたことは、私達家族にとつて貴重な経験であると感慨を覚えます。そして、一緒に活動していただいたり、支えていただいた皆様に、厚く感謝申し上げます。また、今後の大学と後援会の発展をお祈りいたします。ありがとうございます。

楽しかった後援会活動

総務

横岡 明美 (E4 神奈川)



4年前の春、息子が入学するまで日本工業大学を知りませんでした。そんな私と後援会との出逢いは、入学式直後の『後援会をご理解いただく会』でした。参加してみても、「ああ、いわゆるPTAか。」と正直思いましたが、理事のみなさんの口からは「出逢い」や「楽しい」そして会長さんからの「仲



秋田県支部地懇で挨拶する横岡総務

間になってください」の言葉に驚きました。「あれ、何だか楽しそうだぞ。」と思ったところで理事へのお誘いをいただき、「仲間にしてください。」とお返事をさせていただきました。あれから4年。決して無理はせず、自分のできる範囲で、そして楽しく活動をさせていただきました。

最後の一年間は、縁あって本部役員を務めさせていただき、支部の地域別教育懇談会に参加させていただく機会にも恵まれました。神奈川県には支部がなく、日ごろ、生き生きと支部活動をされているみなさまの姿をうらやましく思っており、各支部のみなさんと出逢い、お話をさせていただいた経験は、私にとってかけがえのないものになりました。

全国から来ていらつしやる理事のみなさんと出逢い、話し、仲間になっていく…日常生活では味わ

うことのできない、視野の広がりを感じる4年間でした。

息子の母校、日本工業大学は、わたしにとつても『母校』となりました。日工大と出逢わせてくれた息子よ、ありがとう。

その息子もこの春、日工大を卒業し、地元の大学の大学院に進学します。見守ってくださった大学に心から感謝申し上げます。

後援会のみなさまには、何かとお世話になり、ありがとうございます。そして今後も、よろしくお願いいたします。

大学と後援会の、ますますのご発展とご活躍をお祈りいたします。

後援会ホームページリニューアル



1月11日、後援会のホームページをスマホ対応版にリニューアルしました。必要な情報がより見やすくなるよう、明るくシンプルにレイアウトしました。行事のNEWS、会則や事業内容のほか、後援会会報のバックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

<http://nitkouenkai.jp>

2018年4月から 日本工業大学は新しく 生まれ変わります



グローバル化の進む世界、多様な課題を抱える社会、
変化する人々の暮らし—。
移り変わる時代の流れを受け、
社会が求める人材像も大きく変化しています。
日本工業大学ではそういった時代背景を踏まえて、
これからの社会が求める、これからの社会の変化に対応できる人材を育成し
輩出できるよう、3学部6学科2コースへと改編します。

2018年12月竣工予定の講義棟

CHANGE 01

多様化する個性と力に合わせて
一人ひとりが進化できる学びの環境に

工業高校卒業生・普通科高校卒業生というカテゴリーに限らず、学生一人ひとりの知識や能力は、より多様化しています。日本工業大学では「工業高校卒業生の受入れ」「実工学教育」といった伝統を継承しつつ、学生一人ひとりがそれぞれの目標に向かって確かに成長し、進化できる環境があります。

「自信をもって社会に飛び立つ人材に」

一人ひとりに合わせた成長プロセス



CHANGE 02

「技術で価値を創造できる人材」
をめざして

これからの社会では先進的なだけでなく、既存技術を応用し経済性も高く、かつ満足度の高い機能・サービスへのニーズが高まるでしょう。そこで日本工業大学では「実工学教育」を推進し、「技術で価値を創造できる人材」を新たな育成すべき人材像として掲げていきます。

「技術で価値を創造できる人材」

継承・発展

「実工学教育」の伝統

CHANGE 03

技術者の基盤を築く
共通教育科目

一人ひとりの個性と力の多様化、そして社会が求める人材の変化に対応するため、一人の技術者・一人の社会人としての基盤構築につながる共通教育科目を大きく再構築します。一人ひとりの入学時の力に合わせて、確実にステップアップできる内容へと、生まれ変わります。



技術者としての基盤構築

「技」と「知」の進化／深化

共通教育科目

「赤倉山荘」リニューアルオープン

昨年夏から改装のため閉館していた新潟県妙高高原にある学園厚生施設「赤倉山荘」が、12月に改装工事を終えリニューアルオープンしました。どうぞご利用ください。後援会会員利用料金（1泊2食付き）4,300円（冬季4,700円）お申込みは学生支援課まで（TEL 0480-33-7508）

特別室
（ツイン+洋室）



特別室追加料金
（ツイン+洋室）
+4,000円/室
（ツイン+和室）
+6,000円/室

素晴らしい泉質の大浴場



相談票

学科学年

学籍番号

学 生
氏 名
会 員
氏 名
連絡先

TEL

相談票をご利用下さい

後援会では会員各位にこの相談票を通して、いつでも学生の成績・生活・就職等ご相談に応じられる窓口を開いています。右の票（便箋、ハガキでも結構です）に相談されたい事項や、ご意見、ご希望等ご記入の上、事務局宛にご送付下さい。可能な限り回答します。
（意見・ご投書・ご寄稿もどうぞしお寄せください。（事務局）